


今年も残すところあとわずかとなりました。今年ほど一年が、あ、という間に過ぎて、よくわからないまま過ぎてった... という年はないのではないのでしょうか。一年前には想像もしなかった、誰も体験したことのない世界になって約10ヶ月。価値観だとか普通だとか、いつもの日常がひっくり返ってしまった日々の中で、新たな喜びや楽しみを発見しつつも、やはり悲しいこと辛いことが沢山あったと思います。緊急事態宣言の中で、自殺者の数が過去最低になった、というニュースがあって「人と関わらないことで良い面もあるんだなあ...救われた人もいるんだな」と思ったのですが、秋頃には一転して自殺者が前年の数倍、というのを聞き、暗たんたる気持ちになりました。収入が減ったり、お店を閉めたり...という胸の痛む話も沢山聞きました。そんな混沌と混乱の中で希望はやはり神様を見上げることでしか見込だせない、ということを感じました。お金やこの世の楽しみだけに目を留めていたらいつかは終わる、絶望することもある。けれど全てを「存知で」いつまでも変わらない、そして全てを益として下さる神様を見上げていれば「絶望で終わることはない」と信じられることは何と感謝なことでしょうか。クリスチャンの中にも苦境に立たされている方々の話を多く聞きました。けれど「暗闇の先にある光を見ている姿は美しい」と思いました。また、多くの祈りや献金で支えられてるエピソードなども、神の家族の素晴らしさを見た気がします。それでもやはり生活が大変な方々は多くいます。そのことも忘れず祈っていきたくと思わされます。ところで、我が家の子ども達に「今年はコロナでサンタさんも来れないかも...!？」と話をしたら次男が「えっ、ちがうよ、みんな買い物に行けないからサンタさんがいつもよりいっぱい持ってくるんだよ!」と即答。すばらしいポジティブシンキング...! 私もその心を見習いつつ主と共に歩いていきたいと思ひます。 ロバ子 

まきばでひとやすみ

